

作者プロフィール

柚木 文夫氏

千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

赤鞍ヶ岳一日だまりの山歩き



ウバガ岩からの赤鞍ヶ岳(後方に菜畑・富士)

3月下旬、道志・赤鞍ヶ岳(1299 ㍎)に出かけた。道志川と桂川に挟まれ丹沢の北に広がる道志山塊は、東京近郊ながらひなびた静かな山である。

ところで、この1299 ㍎峰、国土地理院の5万分の1地図では「赤鞍ヶ岳」との標記があるが、昭文社版「山と高原」地図には「朝日岳(赤鞍ヶ岳)」と標記され、これより約1.5 ㍎東側の1257 ㍎峰に「赤鞍ヶ岳(ワラビタタキ)」との標記があるから、話がヤヤコシイ。ともあれ今回は、両峰ともに頂上を踏む計画で出かけた。

朝8時半、前夜の宿の主人に久保部落まで送ってもらい、早速巖道峠に向かう。屈曲した林道をたどると、南側のはずの大室山が真ん前になったり、真後ろになったりするの辛い。1時間程で巖道峠に着き、ここから尾根道の急登が始まった。小さな尾根でも尾根を境に、左がマツ、右がスギの林にくっきり分かれているのが面白い。

10時20分、パラボランテナの局舎が建つ鳥井立に出た。今日の目的地・赤鞍ヶ岳がはるか彼方に見え、ガッカリである。しかし、ここからは、ほとんど高低差のない雑木林の中の尾根道がたんたんと続く。風もなく、最高の日だまり散歩が楽しめた。



雑木林の尾根道

11時半、細茅ノ頭で昼食休憩とする。



秋山峠からの大室・畦ヶ丸・菰釣

ここの北面の眺望が素晴らしい。近くの滝子山、百蔵山、扇山はともかく、遠くの笠取山、唐松尾山、飛龍山、雲取山などは、食事もソコソコに一同、地図標定に議論を戦わせた。

12時、腰をあげて明るい稜線道を再び西に進む。13時15分、ロボット測候所のあるワラビタタキ(「赤鞍ヶ岳」の標識あり)の広場を過ぎると、急に道はクマザサをかき分けかき分けのか細い道になり、ルート間違えたのかと心配する。



ワラビタタキ山頂

しかし程なく道が開け、14時半、秋山峠に到着した。南面に開けたこの草原からは黍殻、蛭、大室、畦ヶ丸、菰釣などの丹沢の山々が指呼の間に眺められ、しばし眺望を楽しんだ。



秋山峠

赤鞍ヶ岳(朝日岳)へはここから約15分で往復した。山頂は木立に覆われ視界はほとんどないが、ここにも「赤鞍ヶ岳」の看板があった。

後は雑木林の中をひたすら下り、大川渡からは今が盛りの櫻・梅・桃を愛でながら国道を歩き、待望の村宮温泉「道志ノ湯」に飛び込んだのが16時半だった。



山頂